

官警際國の街

記述語本日本日記若き二君スラニコラニ君に聽く巡りさんをばらしく功く日本語を話すがるより、氣は樂だが、目さすが巡りさんといふのが、音が高くて、左胸に小さな國旗をつけてゐるといふ、貧弱なが居るといふふーー『證據写真』では甚だ心もとなしい上に、躊躇の中なさぐるべくサンバウロ市は、まるで日本の五月祭風景、みづかつた! シャーリベイの前だアーラ、雜誌は成程脅は北歐の山毛桜みたいに高

話の出来ることを表現した数箇の例、ニホン語ナカ～ムズカシアレサンドレン。ニコラス、家は天下唯我尊のニッポン語でもつて火蓋^{ひふた}を切る。

小国旗の中に燃えこそて日本帝國旗の旗一帆ふ方なし、早速、天上天下唯我尊のニッポン語でもつて火蓋^{ひふた}を切る。

貴方は日本語御上手ださうです
が、日本で御馴染みなつたんです
か?」寸のまつた記者が、まるで防空監視哨立に仰向いて
開口一番すれば、高、
閉口二番すれば、高、
體の上の若い少年のやうな笑顔と聲で、
腰の説りに似た、やさしい聲音だ。

「アーマリカデ生レタノア、アメリ
カ人デス」
「失禮ですが、御名前は?」
「ワラシ、カルトン持ナマセ、
ゴメンナサイオ!」
「ゴメンナサイオ!なんといふ横濱
の包圍、商賣柄にもい
く頃負けしちまつてニコラス君を促してルアを歩き
がら、ニコラス君の身の上話を聞く。
ツボン語できく、話がややこしくなれば葡萄語や英語など混せて――

**A' Cidade de Flo
A. G. DELL'ARING
RUA 15 DE NOVEMBRO, 3**



A black and white illustration of a man from the waist up, wearing a dark suit jacket over a light-colored shirt with a tie. He is holding a small object in his hands. To his right is a vertical sign with Japanese characters and some English text.

◆萬國産業興業博覽會
臺當榮譽之榮（於佛國瑟利耶市）
内國產業博覽會
日本受領之榮（於第二回サンパウロ市）
リオ・デ・ジャネイロ工業研究會名譽賞受領之榮
◆上下ツヅキ（マカコン）作業服
工場農業時用其の他労働服として丈夫で
經濟的實用品

◆塵除ケカツバ（事務服）
事務上、仓库、賣店等の實務に上着として
體裁も良く理想的

◆防水カツバ
防雨用に完全、縫製、皮製、ゴムひき等各種
「サンタマリナ」印

An illustration of a man in a light-colored suit and tie, standing with his hands on his hips. To his right is a large, stylized black arrow pointing diagonally upwards and to the right. The arrow has vertical lines along its sides and a textured surface. In the bottom right corner of the image area, the character '會' (Kai) is written vertically.

自動車道をサンントスへ向つた。途
・ イビランガ博物館に立寄り館
アフォンソ・ダカウイ氏より種
の説明があり、將軍は感銘深く
ラカル獨立の歴史を偲び公園を
周回直ちに南下。
前十一時十五分 雲霧朦朧たる
シベルナルドに着するや多數の
集団の拍手、ダイガードーの歓喜
輪の温の裡に歓迎され、無事に
な下り ライト會社私設の車道
通過し、サントス市に着するや
政府差廻の監督隊に守られア
繁り行く第二

夕のサントス港に名残惜しく
フスト將軍離伯

原日伯協会主事 日本へ出發

々那市浦宿の身となり總帥事前
其の他さう今後打合せに寸暇あ
き有様であるが、どうしてもリモ
デ・シナホイロ丸にて出發せれ
ならない事情から来る廿日サン
ス下り廿一日出帆の同船にて
朝の途に就くこととなつた。海
無事神戸歸着を祈る

上歸トばな屋
人探し問答

あるファイルである
に じ か い し じ へ 伯 人 田村熊太郎氏 本社日々農田
田村熊太郎氏 隊長兵の殿
市外ニニア在田村熊太郎氏は最高
持病想はしからず、生宅に療養
の處、去日十旬還かに革り永
じて、享年四十七歳

新移転・新装の料亭
あをやが

